

至自											昭 20	年 月 日	独立混成第七九旅団司令部 略歴 通称号 満第三八七部隊 丈夫第二五二七四部隊		
10	9	9	9	8	8	8	8	7	6	4	3			1	概 要
29	28	27	18	28	20	15	9	上下旬		2	30			16	
黒河経由入「ソ」													要		
奉天出発															
奉天第五三作業大隊に編入															
主力は奉天に集結															
安東において武装解除															
安東浜江兵舎に集結															
停戦															
日「ソ」開戦															
安東に移駐、爾後安東地区の防衛ならびに陣地構築															
寧安に移駐															
隊を基幹として編成完結															
軍令陸甲第九号により編成下令															
牡丹江（興隆）において第三軍司令部、戦車第一師団司令部、輜重第二五連															
													摘 要		

2632

	至自	至自
	1210	9 9 9
	2 29	3028 24
旅 団 長  少 将  岡 部  通	黒河 経由 入「ソ」	一部は奉天第五四作業大隊に編入 奉天出發

2633

至自											昭 20	年 月 日	概 要	摘 要	
9	9	9	9	9 8	8	8	7	7	5	3	1				
20			16	5 25	15	9	13	9	22	30	16				
奉天第四四作業大隊に編入															
奉天到着															
奉天に向かい出発															
安東に集結															
鳳凰城において武装解除（現地応召者召集解除）															
停戦															
日「ソ」開戦															
安東省鳳凰城着、爾後同地において陣地構築															
移駐のため興隆出発															
現地応召者約五〇〇名入隊															
警備隊を基幹として編成完結															
牡丹江市（興隆）において歩兵第四三連隊、山砲兵第一一連隊第六〇兵站															
軍令陸甲第九号により編成下令															

独立歩兵第五七八大隊 略歴

通称号 満第六二部隊  
丈夫第二五二七五部隊

十二の内

									10 9
									14 22
									奉天出發 黒河經由入「ソ」
								隊	
								長	
								少佐	
								神野	
								福次郎	

至自											昭 20	年 月 日	独立歩兵第五七九大隊 略歴	
10	9	9	9	9	8	7	6	4	4	3	1			概 要
14	22	20	19	12	15	上下 旬	旬	5	4	30	16			
<p>隊 長 大尉 島田重隆</p> <p>黒河経由入「ソ」</p> <p>奉天出發</p> <p>奉天第四作業大隊に編入</p> <p>奉天北陵着</p> <p>湯山城において武装解除</p> <p>停戦</p> <p>安東省安東県湯山城に移駐</p> <p>牡丹江省石頭着</p> <p>興隆出發</p> <p>六中隊を基幹として編成完結</p> <p>牡丹江市（興隆）において歩兵第四四連隊機動歩兵第一連隊、兵站勤務第四</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令</p>											<p>通称号</p> <p>満第二四九部隊</p> <p>丈夫第二五二七六部隊</p>			
											摘 要			

2636

昭和20年											年月日	独立歩兵第五八〇大隊 略歴
10 9 9 9 8 7 5 4 4 3 1												
30 23 21 20 下旬 7 22 7 6 30 16												
<p>隊 長 大尉 佐々木 勝吾</p> <p>黒河經由入「ソ」</p> <p>奉天出発</p> <p>奉天第四五作業大隊に編入</p> <p>奉天に集結し奉天收容所に入所</p> <p>安東において武装解除（現地召集者召集解除）</p> <p>安東に移駐</p> <p>現地召集者約四〇〇名入隊</p> <p>牡丹江省寧安県石頭着、爾後同地付近の警備</p> <p>移駐のため樺林出発</p> <p>廠を基幹として編成完結</p> <p>牡丹江省樺林において第一七野戦兵器廠第一七野戦自動車廠第二五野戦貨物</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令</p>											概要	満第八〇五部隊 丈夫第二五二七七部隊
											摘要	

2637

昭										年 月 日	独立歩兵第五八一大隊 略歴
20											
至自	至自	至自									
1010	9 9	9 9	9	8	7	7	4	3	1	軍令陸甲第九号により編成下令	満第一六六部隊 丈夫第二五二七八部隊
3019	27 23	23 21	19	22	10	7	6	30	16	牡丹江省樺林において歩兵第四〇連隊、第六〇兵站警備隊を基幹として編成 完結	
	奉天出発	奉天第四五、第五三、作業大隊に編入	安東出発、奉天北陵収容所着	安東において武装解除	安東に到着	部隊命令により石頭出発	牡丹江省石頭に移動、鏡泊湖付近の陣地構築作業				
	黒河經由入「ソ」										
隊	長	大尉	中根	忠雄							
										摘要	

2638

昭 20										年 月 日	概 要	摘 要
10	9	9	9	9	8	8	8	6	3			
29	28	26	下旬	28	25	15	9	下旬	30	16		
<p>黒河経由入「ソ」 隊 長 大 尉 森 村 智</p> <p>奉天出発</p> <p>奉天第五三、第五四作業大隊に編入</p> <p>奉天北陵に集結</p> <p>安東発</p> <p>安東において武装解除</p> <p>停 戦</p> <p>日「ソ」開戦、戦闘せず</p> <p>牡丹江省寧安発、安東着</p> <p>等を基幹として編成完結</p> <p>牡丹江省寧安において歩兵第七〇連隊、第三軍輜重教育隊戦車第三五連隊</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令</p>										<p>通称号</p> <p>満第九部隊 丈夫第二五二七九部隊</p>	<p>独立歩兵第五八二大隊 略歴</p>	

十四の外

2639



至 自		昭 20	年 月 日	概 要	摘 要																		
9	9 9	10	9 9	9 9	8 8	8 8	7 7	7 7	1 1	10 10	9 9	15 15	27 27	18 18	23 23	23 23	30 30	26 26	28 28	9 9			
奉天出発		一部は奉天第五三、第五四作業大隊に編入		黒河経由入「ソ」		奉天出発		主力は奉天第四五作業大隊に編入		安東出発し奉天に移動		安東において武装解除		停戦		日「ソ」開戦		補者隊、関東軍工兵幹部教育隊を基幹として編成、爾後同地付近の警備		安東省安東において独立混成第七九旅団隷下部隊、関東軍歩兵第一幹部候補者隊、関東軍工兵幹部教育隊を基幹として編成、爾後同地付近の警備		軍令陸甲第一〇六により編成下令	

## 独立混成第七九旅団挺進大隊略歴

通称号 丈夫第三七八一五部隊

2640

	10
	29
	黒河經由入「ソ」 隊 長 大尉 内藤 仁

2641

至自											昭 20	年 月 日	独立混成第七九旅団砲兵隊 略歴	
11	9	8	8	8	8	8	7	5	4	3	1			概 要
5	27	25	24	20	15	9	15	22	15	30	16			
奉天第五作業大隊に編入 奉天北陵に集結 安東において武装解除 安東に集結 停戦（在満応召者召集解除） 日「ソ」開戦 安東市臂截溝に移動、同地付近の陣地構築 現地応召約二〇〇名入隊 牡丹江省石頭に移動し鏡泊湖地区陣地構築に従事 基幹として編成完結 牡丹江市（興隆）において山砲第一一連、第一五連、野砲兵第一二四連隊を											軍令陸甲第九号により編成下令 通称号 満第八八七部隊 丈夫第二五二八〇部隊	摘要		

2642

十五の内

		11	11
		20	7
	隊	満州里	奉天出発
	長	經由入	ソ
	少佐		
	松尾		
	実		

											昭 20	年 月 日	独立混成第七九旅団工兵隊	
10	9	9	9	8	8	8	8	7	5	4	3			1
14	22	20	19	28	25	15	9	7	22	5	30	16	概 要	通称号 満第二三五部隊 丈夫第二五二八一部隊
隊 長 大 尉 界 省 一	黒河経由入「ソ」	奉天出発	奉天に集結	奉天第四作業大隊に編入	安東において武装解除	現地応召者召集解除	停戦	日「ソ」開戦	安東に移駐、同地付近の警備ならびに陣地構築	現地応召、入隊者約二〇〇名	牡丹江省石頭に移駐	牡丹江市（興隆）において独立工兵第一八連隊を基幹として編成完結	軍令陸甲第九号により編成下令	
													摘 要	

2644

昭 20											年 月 日	概 要	摘 要
9	9	9	9	8	8	8	7	7	4	3			
22	20	19	18	30	15	9	10	5	4	30	16		
奉天出発 奉天第四作業大隊に編入 蘇家屯より行軍にて奉天着 奉天に集結のため安東出發、同日蘇家屯下車 安東において武装解除（現地応召者召集解除） 停戦 日「ソ」開戦 安東着、同地付近の警備 安東警備のため寧安県境通過 牡丹省寧安に移駐 召者約一〇〇名をもつて編成完結 牡丹江市（興隆）において電信第七、第四、第一七連隊を基幹とし現地応 軍令陸甲第九号により編成下令											通称号 満第五七八部隊 丈夫第二五二八二部隊	独立混成第七九旅団通信隊 略歴	

2645

十六の内

	10
	14
	黒河經由入「ソ」
隊	
長	
大尉	
笠井	
清	

2646

至自至自至自											昭 20	年 月 日	独立混成第七九旅団輜重隊 略歴			
10	10	9	10	9	9	8	8	8	7	4	3			1	概	
31	8	8	25	5	24	18	20	15	9	2	6			30		16
隊	長	少	佐	松	永	清	蔵								<p>通称号 満第六八九部隊 丈夫第二五二八三部隊</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令 牡丹江市（興隆）において第三軍司令部、独立自動車第七〇大隊を基幹として編成完結 移駐のため興隆出發、同日寧安県石頭着、同日より同地付近の警備 石頭出發、安東省安東に移駐 日「ソ」開戦 停戦 安東中学校において武装解除 奉天に集結 奉天第五六、第四八作業大隊に編入 奉天出發 黒河經由入「ソ」</p>	摘要

2647



昭 17	昭 19	昭 20	自 昭 22	至 昭 22	年 月 日	概 要	摘 要
9	6	8	8	3	10 9	軍令陸甲第七二号により防空第六一連隊臨時編成下令 大連において第二野戦防空隊司令部、第一四野戦防空隊司令部、旅順要塞重 砲連隊の一部、旅順要塞防空隊を基幹として編成完結爾後同地付近の防空警備 軍令陸甲第四五号により高射砲第一七一連隊と改称 爾後停戦まで大連防空警備 停戦 大連にて武装解除 陝東州金州西海岸において「ソ」軍収容所に収容され、「ソ」軍の労役に従事 大連出帆、帰還 隊 長 大佐 荒木 事吉	
7	1	15	23	26	15 7		

## 高射砲第一七一連隊略歴

(防空第六一連隊)

通称号 強第三一一二部隊

概

要

摘要

2648

昭		昭		昭		年		月		日		概	要	摘要													
21		20		17		年		月		日																	
7	12	12	10	10	9	9	8	8	8	8	10	9	要塞重砲兵第六一中隊 略 歴 通称号 満第六四部隊 満第六一七部隊 強第三一一一部隊														
6	5	4	9	7	18	8	23	22	15	9	8	7															
右收容所出発同日水師管收容所着		旅順收容所着		右收容所出発		大連埠頭收容所着		右收容所出発		金州收容所		大房身收容所		関東州金州病院に收容		大連において武装解除		停戦		日「ソ」開戦		島到着、同日より大連港の守備		旅順において旅順要塞重砲兵連隊を基幹として編成完結旅順出発、同日三山		軍令陸甲第七三号により編成下令	
この間「ソ」軍の労役に従事																											

2649

					昭
					22
		5	3	3	3
		28	23	22	4
	隊				8
	長	大連出帆、帰還	大連埠頭着	王家店屯出発	龍頭出発同日王家店屯收容所着
	大尉				水師管出発同日龍頭收容所着
	吉良				
	長記				

至自		至自		昭	
				20	
10 9 9 9 8 8 8 8		8 7		年 月 日	
16 16 15 10 22 20 18 15		9 10			
<p>司 令 官 少 将 久 保 宗 治</p>		<p>黒河經由、入「ソ」</p>		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>	
<p>奉天出発</p>		<p>主力は、奉天第三五、第三六各作業大隊に編入</p>		<p>第一〇一警備隊司令部、第六九兵站警備隊と情報部および憲兵の一部を基幹として奉天市において、編成中、日ソ開戦となり第三方面軍司令官の隷下に入り奉天市内の警備にあつた。</p>	
<p>奉天において武装解除し、文官屯に集結</p>		<p>現地召集者を召集解除した。</p>		<p>停戦</p>	
				<p>概要</p>	
				<p>摘要</p>	

通称号 強第三四〇二部隊

関東軍第一特別警備隊司令部 略歴

二の外

2651

至自											昭	年月日	概	要	摘要
10	9	9	10	9	9	9	8	8	8	8	7				
10	16	15	16	16	15	10	22	17	15	10	10				
奉天出発 黒河経由「ソ」 第一中隊は第二六作業大隊に編入 奉天出発 黒河経由「ソ」 第一中隊は皇姑屯において交戦 主力は、奉天收容所に入所 同地の第三五作業大隊に編入 奉天において武装解除 停戦にともない現地召集者を召集解除 奉天省文官屯において第六九兵站警備隊の主力を基幹とし憲兵および情報部 ならびに現地召集者をもつて編成完結皇姑屯北陵の各警察署の警備に任じた。											軍令陸甲第一〇六号により編成下令	通称号	強第三七四〇二部隊	略歴	
大隊長 中佐 宮崎 義一															

2652

関東軍第一特別警備隊第二大隊 略歴									
年月日		通称号		強第三七四〇二部隊		概要			
昭	20	7	8	8	8	8	8	9	10
		10	15	18	19	23	20	22	18
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令                      新京において第七四兵站警備隊、憲兵、情報部を基幹として現地応召者をもつて編成し、新京付近の警備                      新京において停戦                      新京出発、公主嶺に移動                      公主嶺に移動途中、茫家屯において「ソ」軍の襲撃をうけた。                      公主嶺において武装解除                      公主嶺第一四作業大隊に編入                      公主嶺出発                      黒河經由、入「ソ」</p> <p>大隊長 大佐 和田昌雄</p>									
摘要									

2653

年 月 日		概 要
昭 20	8 7 10	
9 20	9 1	
大隊長 少佐 後藤秀範		摘 要

関東軍第一特別警備隊第三大隊 略歴

通称号 強第三七四〇二部隊

2654

							昭 20	年 月 日	概 要
							7		
10	9	9	8	8	8	10			
							10	10	関東軍第一特別警備隊第四大隊 略歴 通称号 強第三七四〇二部隊
									軍令陸甲第一〇六号により編成下令 奉天において第六二兵站警備隊、憲兵、情報部を基幹とし現地召集者をもつて編成完結、奉天市内の警備 停戦後も同地にあつて市内暴動の鎮圧 奉天において武装解除、同日、現地召集者召集解除 奉天第三五作業大隊に編入 奉天出発 黒河經由入「ソ」
									大隊長 大佐 平野逸爾
									摘要

四の外

2655



							昭和	
							20	
							7	8
							10	10
							15	19
							20	22
							18	10
<p>大 隊 長 少 佐 福 田 港 三 郎</p>							<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>	
							<p>新令陸甲第一〇六号により編成下令                      新令において第七四兵站警備隊を基幹とし憲兵、情報部、現地召集将校を加へ                      編成完結、編成後、通遠に移駐する予定のところ関東軍の命令により第二大隊                      長の指揮下に入り、新京市内の警備                      停戦                      新京より公主嶺に移動し公主嶺において武装解除                      公主嶺収容所に入所、公主嶺第一四作業大隊に編入                      公主嶺出発                      黒河経由入「ソ」</p>	
							概	要
							摘要	

関東軍第一特別警備隊第五大隊 略歴

通称号 強第三七四〇二部隊

昭和20年							年 月 日	概 要
7								
9	9	9	8	8	8	7		
							10	軍令陸甲第一〇六号により編成下令
							10	承德において第六九兵站警備隊の一ケ中隊、憲兵、情報部承德支部を加へ、編成完結、承德市在留邦人の保護、ならびに市内の警備
							15	停戦
							15	停戦と共に一部離隊
							19	承德において武装解除
							10	主力は承德第三作業大隊に編入
							15	承德出発
							20	満洲里經由、入「ソ」
大隊長 中佐 斎藤 鐘三								
								摘要

関東軍第一特別警備隊第六大隊 略歴

通称号 強第三七四〇二部隊

2657

							昭 20	年 月 日	
						8	7		
						10	10		
<p>通称号 強第三七四〇二部隊</p> <p>関東軍第一特別警備隊第七大隊 略歴</p>								概	要
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p> <p>四平において第七四兵站警備の一ケ中隊を基幹として憲兵、情報部、現地召集者若干をもつて編成完結</p> <p>同日より四平市内の警備</p> <p>停戦、現地応召者を召集解除</p> <p>四平において武装解除</p> <p>四平收容所に入所、同地の第四作業大隊に編入</p> <p>四平出発</p> <p>黒河経由入「ソ」</p> <p>大隊長 大佐 宇島良雄</p>								概	要
								摘	要

2658

至自										昭	年月日	関東軍第一特別警備隊第八大隊 略歴 通称号 強第三七四〇二部隊
										20		
10	10	9	9	8	8	8	8	8	7	7		
16	6	15	2	22	21	15	12	10	10	10	概	
大 隊 長 大 佐 上 野 貞 次 黒河経由入「ソ」 奉天出発 奉天第三六作業大隊に編入 文官屯に移動 奉天南満中学校において武装解除 停戦 奉天に移動 をもつて編成完結										要	軍令陸甲第一〇六号により編成下令 安東において第七九兵站警備隊を基幹とし憲兵および情報部現地召者若干	
										摘要		

六の外

2659

		昭 20				年 月 日		
		10	9	9	8	8	7	
		16	15	10	7	21	15	
		<p>通称号 強第三七四〇二部隊</p> <p>関東軍第一特別警備隊第九大隊 略歴</p>						
		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令 奉天において第六二兵站警備隊を基幹とし憲兵、情報部現地召集者若干をもつて編成完結、奉天市内の警備 停戦 奉天において武装解除 奉天収容所に入所 奉天第三五作業大隊に編入 奉天出発 黒河經由入「ソ」</p>						概
大 隊 長								要
少 佐								
小 松 昇								
								摘 要

2660